

発表者氏名： 加賀 裕子

所属学校： 中学校

派遣職種： 理数科教師

派遣国： カンボジア

派遣先： バッタンバン中等教員養成学校

タイトル： ボランティア活動を通して学んだこと

キーワード：

発表要旨：

1 要請内容

カンボジアの中等教員養成学校で物理、化学、生物、地学の実験を担当する。教官向けの学習会を開催する。また、地元で手に入るものを使ってできるように実験方法を改善する。

2 目標の設定

校長や職場の同僚と相談しながら設定していく。赴任先のニーズや教官たちの特徴をよくとらえて行う。目標の設定は短期間で結果を残そうとするのではなく、長い目で見て行う。

3 活動の経過

着任当初 言葉の壁、生徒と一緒に授業に参加

半年後 生徒に直接実験を教えるのではなく、教官との実験を中心に行う。生徒実験の際、自分はサポートとして実験に参加

1年後 教官の実験授業に少しずつ手ごたえを感じるようになる。

1年半後 実験講習会（地域の中学校の理科教員対象）を教官たちに提案する。

帰国直前 実験講習会の実施

4 他団体との関係づくり

赴任先にはJICAを含め、5つの国の団体が入っていた。

5 2年間の成果、自分の中での課題として残ったこと

（教官）教官たちが自ら学ぶようになり、お互いを助け合う様子が見られるようになった 他

地学の授業で太陽の一日の動きを観察したときの様子。
中央にいる男性が地学の教官。太陽の動きを一日かけて観察し、太陽の高さと時間との関係をグラフに示す。このグラフの書き方を生徒に教えるための確認を教官と行っているところ。

